



外国語の学習から始まった「文化の交流」 ～サムスコランとのビデオレター交流の始まり～

ジェームズ先生が紹介してくれた英国の絵本。そこには刻一刻と進む環境問題を憂いている作者の思いが刻まれていました。日本人もイギリス人も関係ない、共通の問題について、お互いに考えを伝え合いながら、K君は、「外国語の授業って、文化の貿易、文化の交流だね」と語っていました。



そんな中、スウェーデンの環境活動家であるグレッタさんのことをずっと調べている T さんがある日の学習カードに、「外国の子どもたちとも交流できたら、コロナのこととか、環境問題のこととか、どうやって考えているのか話し合える。そういう交流をしてみたい」と綴りました。



そこで、信州大学とつながりのある「サムスコラン」という学校との交流が動き出しました。信州大学教育学部、金沢大学、スウェーデンのウルスラ大学の先生方や、その学生さんも授業で交流をしていました。その先生方や学生さんのサポートに支えられながら、「ビデオレター」での交流が始まりました。

どんどん身近になっていく英語 ～届けたい思いから生まれていく言葉～

「スウェーデンのみんな」ではなく、ちゃんと名前呼び合えるような関係を築きたい。特別支援学校のみなどの交流から実感してきた「わたしのペアのあの子」の感覚。よりつながりを感じ合えるようにと、10グループに分けて、まずは自己紹介ビデオを送りました。ビデオが送られたスウェーデンの教室には、通訳してくれる日本の先生たちはいない。自分たちの外国語に対する必要感が増していきました。少し前なら友だちの前で一人、英語で発話していくことに抵抗を持っていた子たちも、ビデオを向けられると、自然に笑顔で話をしていきました。続けて、9月には日本の食事、文化、善光寺、私たちの学校、コロナ禍での学校生活など、自分たちのテーマに沿ったビデオレターを送ることができました。

知りたいな あなたのことがわかっていく わたしのこと



10月。サムスコランからも返信のビデオが届きました。私たちが届けたものを確かに受け取り、その話題についても語っていく様子。子どもたちは、必死にその言葉を受け取れるように、また映像からもその情報を少しでも推測できるようにと、食い入るようにビデオを見ていきました。サムスコランの学校生活がよくわかる内容でした。

しかし、ビデオを見終わったとき、子どもたちが口にし始めたことは、その動画に現れている「自由さ」です。自分たちが先に送ったものは、一生懸命「練習」をして、みんなで横一列に並んで「セリフ」を話していました。しかし、サムスコランの子たちは、座っていたり、廊下を歩きながらだったり。笑ったり、ふざけたり、失敗したと思われるセリフも撮り直したりしない。

本当に、そのままの「その子」がそこには映されていました。「私たちも、『私たちのことが分かる』ビデオを作りたい」、そうして、サムスコランの子たちから受け取ったものを大切に、次のビデオ作りに進んでいきました。



SDGs 「わたしたち」は「世界中の人」のこと

今、スウェーデンの学校はコロナの影響で休校になっています。このコロナの対応も日本とはずいぶん違いがありました。それだけではなく、税金の高さと高度な医療福祉。投票率や政権支持率の高さ。自分たちも社会科で学習を進めながら、聴きたいことはたくさん増えていきます。今、一番一緒に考えたいのは「SDGs」についてです。同じ未来を生きる、同じ年代の子どもたち。たがいに知恵を出し合いながら、私たちの手で新しい生活様式を確立していこうとしています。